

1 月 1 日 工業大学蔵前新聞

石
原
純

[illegible][illegible]

偶然論と文學（二）

偶然と必然との交錯

石 原 純

先頃、中河一氏が偶然論を唱へて、それが我國現時の文學に與へて重要な意味を有すべきことを説かれたのは、大いに私の興味を惹いた。

勿論、私は今日の文學がどれ程に必然論に傾はされてゐるかに對して具體的に例證し得る程に文學を知るものではない。併し若し説かれた現象主義が現實を必然的なものとのみ解し、そしてひたすらにその片断な必然的現象のみを追隨するとしたならば、そこにいかにも退屈な文學が出現すべきかを私は想像することが出来る。

かやうな場合にはその深淵を指し、敢て藝術の創造性を奮勵することは極めて適切でなければならぬと思ふ。

中河氏は、文學における必然論はマルクス主義の唯物辯證法に由來するといふ。唯物辯證法がマルクス主義の社會科學において採用せられて、それが社會現象における或る必然性（但し嚴密には之は事象の必然性の語で置換へらるべきこと後述の通りである）を明らかにして、一つの世界觀を構成せしめたことは、その最も顯著な功績として物語ることも出来るであらう。

なぜなら、それ以前における社會學はかやうな點についてまるで盲目でしかなく、たゞからである。併しこの學の故に、マルクス主義を奉ずる人々が唯物辯證法を真能であるか否かよく心得て、これを其他の一切の學問、特に文學の世界にまでも引き入れて、これによつてそれ等の對照を導きようとする如きは、神前の方水を取んで酒を酌さうとするのと等しい一神祕であるであらう。

そこには、もつと正しい、理性的な判斷が必要であること勿論である。社會は一つの統一的な世界であつて、従つてその現象的連綿として現れるものは、物理學的の用語を用ゐるならば「機械的（マキニコビク）な變化である。これに反して社會の要素をなす個人の心理、習慣、行動、その他は機械的（ミタニコビク）の範疇に屬する。たとひ前者において或る必然性（必然性）は、後者は偶然性（偶然性）に見出だされるときも、それと同じ論據において後者がまた同様な必然性に支配されるとは決していふことが出来ない。中河氏が説明するまでもなく、總ての人間があらゆる「偶然の毛髪」として投げ出されてゐることは、彼等自身が余りによく知つてゐる。そして文學が、いかに巧にその毛髪を捉へ、そしてこれを解きほぐしてくれるかを、我々はそれに要求する。假りにマルクス主義の世界觀をもつてするとしても、我々はいかなる偶然と社會現象との間に掛け違ひ交錯が存することを明らかにし、従つてどんな一つの偶然の毛髪を取り出さうとも、それがいかに社會的必然の色彩をもつて染られてゐるであらうかを「暴露」させようとする點に、その文學の半眼を量かうとすることを當然とするのである。

従つてかやうな場合に於て、さへも、それを「文學」として特質づけるものは、社會的必然性ではなくて、却つて個人的偶然性にあるので、それ故にその斷斷な文學的價值は専ら後者に於て見出されねばならなかつた筈である。それにも拘らず多くのマルクス主義文學が知つて單に前者を強調することに於て、その實際的價值を高めようとする處に、その一つの眼點が置かれるのである。

廣 告

偶然論と文學

歪められた科學

石原純

中河氏はその偶然論を提唱するに際して、その甚だ有力な味方として起軒の文壇における行動主義やベルグソンの哲學や科學における偶然論を引用してゐる。私は中河氏が以前から種々の機會において科學への多大の關心を示し、その知識を文學の上に利用しようとしてゐることに對し、これを稀少な例の一つとしてひそかに敬意を抱いてゐる。「偶然の毛毯」の一文にあつても、若中河氏が同様の關心をもつて、偶科學における偶然論に眼を醒め、或る機會を得られたことによつて、これがその意見をまとめる主要な動機となつたとしたならば、私はそれのよい効

果について感服したいと思ふ。併しなからそれと同時に、中河氏がそのなかにおいて證られた科學における偶然論は不幸にして必ずしもその正確な意味においては解されてゐなかつたことを甚だ遺憾としなければならぬのであつた。近代における科學の根本的な理論は總て離かしい數學的形式においていひ表はされてゐるから、これ等を本質的に深く理解するとは科學者以外のの人々にとつて一般に困難である。従つてその理論を他に適用しようとする場合には、往々にして甚だしい誤解が生ずることは限らない。嘗てアインシュタインの相對性理論が喧傳せられた際に、それと似た量子力學的理論が話される際に、私は屢々その例を

見る。先頃實川豊彦氏が後者をその宗教的世界觀と結びつけて説かれたものゝ如き、また大いにその嫌ひがあつた。中河氏一氏がハイゼンベルクの不確定性原理を引用して「人智には位置と速度とがある。而も位置と速度とは同時にあり得ない」と述べるときに、私はその余りにも珍妙に歪められたものに對して茫然たるを得ない。その科學への關心の態度だけは、いかに敬意を表するとしても、その内容の不正確さに對しては、私は科學理論の嚴正なることを知る限り、一層これを悲しむ、且つこれを平氣に見逃かすわけにゆかないのである。科學理論を知らない人々に向つては、何かしら講のわからぬ點を語りかざすことにより、何等かしの役に立つかも知れないけれども、私はさうした良心的でない論者の態度を排斥したいし、一方で科學理論に通ずる人々に向つては、却て全體に對する侮蔑を招く虞のあることを注意したい。要は出來る限り科學理論を忠實に語ることに努めねばならぬまい。他方では併し上述のやうな重要な科學理論を最も正確に、しかも一般人に理解出来るやうな平易な言葉で解説すると云ふことが、特に我國に於てはなほ甚だ不十分であることが考へられる。中河氏の上の引用文の如きが何に據られたのかは知らないが、西洋では第一流の科學者自身がいかに巧妙な通俗的解説を多く公けにしてゐるのに反し、我國の科學者たちはとくさう云ふことに無頓着であるばかりではなく、偶々之行つても嫌を囁むやうな硬くるしみに陥つてしまつて一向にその効果を失つたと云ふ有様である。この意味では我國で科學的知識の普及してゐないことの一半の實が科學者自身にあると云はれても仕方がないであらう。

廣 告

偶然論と文學 (三)

因果法則をめぐりて

石 原 純

文學における偶然論が科學におけるそれとどんな關係に立つべきかを正しく見るためには、まず科學における偶然論を多量に詳しく説明する必要があるであらうが、こゝでは到底それだけの余地もないので、私はこの對比のために必要な主眼だけを、つとめて短く記すに止める。

古來、科學における因果律は、單に必然論の世界を我々に示したに過ぎなかつた。この世界は勿論「自然」に關すること我々は知つてゐる。いひ換へればそれは自然に對する一つの客觀的知識として考へられた。そこで多くの人は早計にもその逆論をも試み、あるとして假定した。即ち自然は、必然的な因果關係によつて支配されると。こゝに自然の決定論

的知識がその根柢をもつのである。

「若し自然のなかにおかれた一つの物體の現在の状態を完全に知ることができたらば、その總ての未來を豫言することが可能である。」

この決定論的命題の前提のなかに「状態を完全に知る」といふことが含まれてゐる。自然に對して我々はどんな場合に、いつてこれを可能とするかといふことが、こゝで根本的に重要なのである。ところで我々の科學、特に物理學はこの事に對する諸々の制限を我々に示したのであつた。そしてこれが科學に對して偶然論の干渉する境界でなければならぬのであつた。

第一に、我々は總ての量の測定において偶然論的誤差の件との免れ難いことを知つた。然し我々はこゝではその偶然性を必然的な因果法則によつて征服してしまつて、これに過するやうなものを我々の求める量であるとしてそれを決定することに成功した。そしてこれが決定論的知識を確立せしめる一帯的な根據となつた。

第二には、前に述べた社會現象と同様な統計的現象である。こゝでは觀察の目的となるのは單に巨視的狀態のみであつて、微視的狀態はたとへば特殊の方法では觀察出來るにしても、之を偶然論の枠内に追ひ入れてしまつて、その間に成り立つ必然的法則のみを求めようとするのである。物理學で取扱ふ熱現象はこれであつて、従つてその法則は必然的ではなく、常に蓋然的である。

第三には、新たに發見された量子力學的現象である。そこでは、假へば我々が或る物質粒子の運動狀態をいかに完全に知らうとしても、その位置と運動とを同時に決定することができない、却てそれらが或る範圍内に隔たはる離らしきだけしか知ることができない。これが謂はゆる不確定性原理

なのであつて、これによつて粒子が行動する偶然性が考へられるのである。粒子の運動におけるこの偶然性は、第一に述べたものと同時に我々のいかにしても避けることのできないものであるが、第一におけるそれが因果法則によつて征服されるのに反して、これは却て量子力學的理論によつて確立されねばならない處のものであり、こゝに我々は遂に從來の意味での必然的な因果法則をも見限らねばならない。自然の本質に到達したのである。

併しながら我々にとつて大切なことは、この事情によつて科學は實質上さほどの影響をも受けないと云ふことである。たとへば我々は嚴密な必然性を見棄てねばならなかつたとは云へ、なほ蓋然的に或る程度まで確實な因果法則を保持することはできる。そしてこれによつて數ひ種のことのできない偶然性の世界は、もはや科學以外の範圍に屬するものであり、これを除外するとしても我々の科學の目的には何等支へないものである。

廣 告

偶然論と文學

文學に課せられた主題

石原純

唯物的論法は社會現象における或る必然性を示すと云はれてゐるが、社會現象が個人の集合體における統計的事實である限りにおいては、それは決して必然な偶然ではなく、必然的な偶然に過ぎないことは勿論である。それは大多數の人間がかやうな必然的偶然に導かれるであらうことを證明することができたとしても、決して各個人の思想や行動を規定することはできない。個人の心理的動向はさういふ社會的動向に導かれてはならないとはいはれないと同時に、それと獨立な要素をも含むことは明らかである。俗にもそれは上述の科學的動向に際して、必然的な偶然法則の外に、これによつては規定されない偶然性の世界があるのと同様である。そしてどんな非論法もはやこの點にまでは立ち入ることができない。

イギリスのブラク(W. L. 教授)は量子力学における偶然性の世界を次のやうな比喩でいひ表はした。部屋の花が假に大きな量子振張りであるとすればこの天井を跳ねてゐるとその上方を歩く人の足跡やその他この量子振に振盪するものを觀察することができであらう。昔は斯ういふ方法で上方の人の行動がわかると考へてゐたのであるが、現在我々が自然に接する有様を見ると、量子を送して足跡を眺めるのではなくて、何かしら直接にその足に觸つて、それがどこにあるかを知らぬのと同様である。足に余りに軽く觸つたのではその振動がはつきりわからないし、余りにひどく觸ると、そのお蔭で上方の人は驚いて足をとび除けてしまふ。だから、それ以前に足がどこから来たかはわかつて、その後どこへ行くかはわからない。上方の人間はこの観測者には「不可知な第三次元」において行動するのである。

かくて量子力學的の偶然性は我々にとつて悉く全く不可知の世界に屬するのであらうが、これに反して實際の人間の心理は全然不可知ではないに相違ない。一方では心理学や精神分析學はそこに既に成る一體的な體法の存すること、を自然科學的方法によつて示すのであり、そして他方では社會科學がその社會に對する觀察を明らかにしようとするのであつた。従つてこの場合に現れる偶然性は必ずしも量子力學的のそれとは同一でなく、却て基が前に擧げた第一及び第二のそれと同様なものを含んでゐる。併しそれと同時に我々人間の心理は今日において決して上述の方法だけで完全に解さるゝとは保障されないで、中河氏の

廣 告

科学の世界と政治との関係

(上) 石原 純

科学の世界と政治との関係は、決して分離して存在するものではない。科学は社会の発展を促す力であり、政治は科学の成果を社会に適用する力である。科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。

科学の世界は、真理の探求を目的とする。科学者は、自然の法則を理解し、それを説明するために実験と理論を用いる。科学の世界は、客観性と再現性を重視し、個人の感情や権威の影響を受けずに進む。

政治の世界は、社会の秩序と利益の調整を目的とする。政治家は、国民の利益を代表し、社会の発展を促進するために政策を立案し、執行する。政治の世界は、権力と利益の争いを伴い、個人の感情や権威の影響を受けやすい。

科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。科学の成果は、政治の発展を促し、社会の進歩をもたらす。政治の発展は、科学の発展を促進し、社会の進歩をもたらす。科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。

科学の世界と政治との関係は、決して分離して存在するものではない。科学は社会の発展を促す力であり、政治は科学の成果を社会に適用する力である。科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。

科学の世界は、真理の探求を目的とする。科学者は、自然の法則を理解し、それを説明するために実験と理論を用いる。科学の世界は、客観性と再現性を重視し、個人の感情や権威の影響を受けずに進む。

政治の世界は、社会の秩序と利益の調整を目的とする。政治家は、国民の利益を代表し、社会の発展を促進するために政策を立案し、執行する。政治の世界は、権力と利益の争いを伴い、個人の感情や権威の影響を受けやすい。

科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。科学の成果は、政治の発展を促し、社会の進歩をもたらす。政治の発展は、科学の発展を促進し、社会の進歩をもたらす。科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。

科学の世界と政治との関係

(下) 石原 純

科学の世界と政治との関係は、決して分離して存在するものではない。科学は社会の発展を促す力であり、政治は科学の成果を社会に適用する力である。科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。

科学の世界は、真理の探求を目的とする。科学者は、自然の法則を理解し、それを説明するために実験と理論を用いる。科学の世界は、客観性と再現性を重視し、個人の感情や権威の影響を受けずに進む。

政治の世界は、社会の秩序と利益の調整を目的とする。政治家は、国民の利益を代表し、社会の発展を促進するために政策を立案し、執行する。政治の世界は、権力と利益の争いを伴い、個人の感情や権威の影響を受けやすい。

科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。科学の成果は、政治の発展を促し、社会の進歩をもたらす。政治の発展は、科学の発展を促進し、社会の進歩をもたらす。科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。

科学の世界と政治との関係は、決して分離して存在するものではない。科学は社会の発展を促す力であり、政治は科学の成果を社会に適用する力である。科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。

科学の世界は、真理の探求を目的とする。科学者は、自然の法則を理解し、それを説明するために実験と理論を用いる。科学の世界は、客観性と再現性を重視し、個人の感情や権威の影響を受けずに進む。

政治の世界は、社会の秩序と利益の調整を目的とする。政治家は、国民の利益を代表し、社会の発展を促進するために政策を立案し、執行する。政治の世界は、権力と利益の争いを伴い、個人の感情や権威の影響を受けやすい。

科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。科学の成果は、政治の発展を促し、社会の進歩をもたらす。政治の発展は、科学の発展を促進し、社会の進歩をもたらす。科学と政治の相互作用は、人類の進歩の歴史を形作る重要な要素である。



○人間
の思慮は
どんなに
深いやう
でも常に
自然の巧
妙さには
及ばない
だから、自然の法則を研究す
る我々がどんな不思議を「夢
想」したところで、結局それ
が眞實であるのならば、自然
においては極めて驚きまへに
現はれてゐることではあり
得ないのである。

○でも、物理学の理論など
では眞實の法則を追究するた
めに、現實的にはあり得ない
事柄をも夢想する。これを

我々は「思考實驗」と名づけてゐ
る。「或る一つの實驗室内で
すべての物の重さが無くな
つたら、何が起こるだらう
か」之はアインシュタインが
一般相対性理論を形作る際に
なした有名な思考實驗であ
る。水がみんな重い水であつた
なら」と夢想してもよいかも
知れない。でも、之は一寸上
の思考實驗とは趣きがちが
ふ。人間に必要な普通の水は
比熱がばかに大きく、温度四
度で最大密度をもつと云ふ變

どんな人間の思慮も 自然には及ばず

理學博士 石原 純

る。重さを無くすなどは勿論
夢想に過ぎないが、それによ
つて重さ即ち萬有引力の本質
(理論的關係)を知らうとす
るのがその目的なのである。

○同じやうに「若し太平洋
の海、存在の確率が大きい」
と云ふ原理が潜んでゐるらし
い。これこそ確かに世界が
「確定せられた調和」を示す
根源の一つとなつてゐるので
あらう。だが、確率の小さい
は不可能とは異なる。だからこ
そ「繁える魔爐の前で寒さを
感ずる」こともないとは云は
れないのであつた。可能性を
有する夢と云ふのは、理
論物理學者にとつては結
局さう云ふ種類のものではあ
らう。(筆
者は前東
北帝大教
授、専門
は理論物
理學)



理學博士 石原 純

スニエイサ

数学を解く器械

一般の人
人が数学
を学ぶの
は論理的
演繹を正
しく行ふ
ための修
養として必要であると考へら
れるが、徒らに一々の問題を解
くのに悩ませられるのは余り感
心したことはない。

そこで数学の問題を解くのに
いろいろの器械的手段を應用す
るのは寧ろ適切な事柄である。

算盤や計算器は加減乗除を簡
單に行ふための器械である。對
數表を用ゐたり、その外の圖表
を利用するのも同様な補助手段
である。近頃ではいろいろ複雑
な數學器械が發明されるやうに
なつた。

▼

アメリカのマサチューセツツ
工業大學のブッシュ博士は十個
の聯立一次方程式の解を與へる
計算器を考案したが、一千箇の
滑車と五百フット以上の鋼鐵
尺とを具へてゐるといふ話であ
る。又イギリスのマロックは澤
山の交流變壓機を巧に組合せて
同じく十個の方程式を解く電氣
計算器を發明したとのことだ
ある。

▼

更に上記のブッシュ博士が考
案し、イギリスのマントエスタ
ー大學のハートリー教授が改良
製作した微分解析器と稱するも
のは、二次以上の微分方程式を
も解くことができるので、實に
驚くべき微妙な器械である。先
頃同大學で發明講演があつたと
云ふが、構造はかなり複雑で、
之を調整するのに半日も要るけ
れども、その上ではどんな難か
しい方程式でも十分單位で答が
出ると云ふのだから、たいした
ものである。電氣のスイッチツ
チを入れるとモーターが働いて、
誤のない計算をやってくれる譯
である。(J・I)

スニエイサ

日没時の緑閃光

百尺とか二百尺とか程高い海岸で海
に沈んでゆく太陽を眺めると、太陽が
緑色の閃光を發するといふ話は屢々聞
かされる。これからの夏の海岸でそれ
を實際に経験して見るのは興味あるこ
と思はれる。

この現象に就てニュージーランドのウォーレー教授が極
く小さな望遠鏡で觀測した處によると、或る日のこと、大氣
が三層に分れてゐて、最下層を通して太陽を見ると橙赤色
を呈し、中央の層からは橙色に、上層からは黄色に見えた
が、太陽の縁には著しい動揺が水平の向きに現はれてゐ
た。太陽直径の五分の一許りが地平線上に残つた際に橙色
の動揺せる縁に綠色の縞が見え、太陽の沈むに従つてはつ
きりとなつた。太陽がすっかり隠れる直前に細い水平の線
條が頂上から張られてその端や上邊が綠色をしてゐた。そ
してそれが段々に薄綠色に變つて行つた。

もう一度は空の非常に暗れた日で、肉眼では眩し過ぎた
が、望遠鏡で見ると黄色で下部が橙色であつた。太陽の五
分の一許りが沈んだとき、動揺せる縁に輝いた紫色の縞が
見え、沈むに従つて青色に變つて行つた。まさに隠れる際
にはやはり輝いた青色の線條が張られてゐた。

この現象の起るのは、大體は大氣が光を分散するのに依
るが、太陽面の内部と縁との色の對照もかなり影響してゐ
ると考へられてゐる。ともかくも地平線が十分に暗れてさ
へるれば高い處からは普通に現れるもので、ウォーレー
は日没直後に満月の綠色に見えることをも經驗したとの
ことである。(石原)

9月1日 東京朝日新聞



時間秤り
サ
イ
エ
ウ
ス
現在では之を標準時計と比べるのにかなりの時間を要するので、時計製造者が

531.76
681.11

澤山の時計の検査を済ませるために非常な手数がかゝる。若しこれを手つとり早く行ふことが出来るなら、それだけ費用も少くなり大きな利益がある。

◆先頃日本でも時計の進みを簡単に定める方法を發明したといふ記事が新聞に出てゐたが、それは確か機械的に振動を比べるといふのであつた。併しドイツでは同じ目的を電氣的方法でやる一種の時間秤が考案され、既にジーメンス・ハルスケー社で製作されてゐる。

◆考案者はシュトラウマンといふ人で、先づ標準時計と被験時計との秒打毎に一定の電流が斷續されるやうになし、例へば前者によつて電流が流れるやうにすると電流の強さをあらはす曲線は全體として四角な衝撃的な流れを示すこととなるが、この衝撃の長さは兩者の位相差に比例し、從つて電流の平均の強さもまた之に比例するわけである。それ故、被験時計の進みが正しくないとその平均の強さが變化するやうになるから、之を調整器などと同様な装置を用ゐてかなりの程度迄精密に目つて時間を知ることができるといふのである。

時計を最も人々にはこの器械は非常に便利なものとして、將來大いに利用されるであらう。(J・I)

9月21日 東京朝日新聞



量子論に關する論争

▽：量子論は今世紀に於ける革命的な物理學理論として一大盛興に値するものであるが、先頃アインシュタイン教授はアメリカの學術雜誌に量子論に對する根本的な疑問を提起した。ところが、コペンハーゲン大學のボーア教授は直にア教授の意見を反駁した。ボーア教授は量子論への偉大な貢獻者として有名であるので、今やこの二大物理學者の論争は、學界注視の的となつてゐる。

▽：ア教授の意見では、物理的實在は理論とは無關係に客觀的に存在するもので、我々はこれを都合よく記述する理論を探し出さねばならない筈である。然るに量子論では、電子の如き實在を單に一つの方程式として示すだけで、その具體的な有様は例の不確定性原理でばかりしてしまつてゐる。之は恰も畫家が風景を線や色で描く代りに、譯のわからぬ記號で示してゐる様なものである。だから因果律なども問題にされることになるので、之は理論の不完全な罪でなければならぬと云ふのである。

▽：これに對するボーア教授の意見を要約すれば、物理的實在をいつでも線や色で描き出せる風景のやうに考へるのが間違ひで我々がこれを調べるために當然認めねばならぬ制約の上からどうしても複雑な記號を以てでなければ表はされぬやうになるのだと云ふにある。

▽：この論争は、恐らくア教授の云ふ「完全」な理論が實際に出來上らねば、結局はつかないであらう。ア教授は別にその理論を試みてゐるが、現在ではその成功は全く霧中にある。(J・I)

島政二郎
寺本忠雄

「そんなこと、仰しやらなくつたつて知つてるわよ。知つての上（うへ）の話よ。」

混同の不便と改稱論

石原純

勿論、私は化學の改稱を化學者に即して傳達するに先だち、一應は科學改稱の案案を検討して見なくてはならない。多くの自然科學者が抱持する意見に従へば、科學

どとさせるのは少し變ではないかと思はれる。これは現在我々の用ひてゐる「科學」及び「理學」の語が決して同義でない體態である。

の代りに理學の語を用ひれば十分でないかと云ふものと云ふ。現に大學の理學部とか理學博士とかいふ慣用語が既に行はれてゐると言ふ。併しこれ等の例の場合には、學や藝術や工學や農學や林學の如きや蓋して理學より外に存し、理學は專に自然科學の基礎的部分を

或る人々は又、語で云ふと云ふのを廢し、科學で舊山田にもあるし、この意見もかなりにあるらしい。現に學術研究會議とか日本學術振興會とか云ふ名稱も既に於てあると主張されてゐる。併し私はかうやうな有名な名稱の如きで科學又は自然科學を意味することには一向差支ななと思ふけれども、一向

僕も云ふけど、君の水先煎は實に
野郎、美人の吸殻のやうに正しに
使れて正當に白味すれば、僕は君に
たから。——と云ふ意味は、こんな
に事なら、——さうして、妙を考
りつて行つたに違ひない。しかし
し、現在の僕には、感服よりも何
よりも、仕事が面白くつて堪らな
いんだ。」

「……」

いゝ加減のところで、おははれ

てゐたのが、六蔵がムキになつて來たので、はるみか衣箱も夏目目録に引き籠まつて來た。

「さう云ひながら、人間だ、什事が、姉人だといふ口の下から、君に惚けるなんざも、だらうがな」に驚くなんざも、

「……」

六蔵が笑ひ掛けたが、はるみかは笑はなかつた。

「僕のは三秒に對する氣持を瞬時に變へて、こゝで二人の關係をきつてしまふ、それで便利だらう。聞いてくれたまへ。」

さて化學を改稱するとしても、
なかく困難の多いことは豫想さ
れる。昔の蘭書翻譯時代に行はれ
た舍密學なる語は、今日普通に用

ミトゲン線と
死滅時放射線



▽…ミトゲ
ン線といふ
のは生物體
を構成する
細胞が分裂
を行ふ時に
放射する紫

第二の細胞分裂を促進する作用があり、その最初の實在は玉嚢で確められ、次に解母で確認された。鰵が最近では之は獨り植物細胞のみに限らず、凡ゆる生物の細胞がこの種の放射線を出すことが判り、種々の生活現象とも密接な關係があると云ふことがわかつた。

▽又醫學上よりの研究では健康

人の血液からはミトゲン線が出るが、癌患者の血液からは出方が極く少ないか、或は認め難い。要するにミトゲン線は生活力の旺盛な生きた細胞から放射されるものには間違ひないのであるが、此處に又不思議と云はねばならぬのは、細胞が死滅する瞬間に強力なるミトゲン線類似の放射線を放射すると云ふ事實で

學藝だより

▽海合直文進連會 廿四日前十時、
城東區龜戸町三丁目萩寺
▽動物談話會 廿五日後六時、上野
廣小路明治製菓にて、講演岸田久
吉氏「台灣の動物採集」
▽松田修平氏創展 廿八日より三日
間、日本橋區通三丁目水鏡堂樓上
▽新文會講演會 廿八日後六時半、
湯島聖堂內兩堂

島政二郎
寺本忠雄

けつてくれて、眞面目に考慮してく
れたんだね。その結果、將來僕が
デパートに就職して、二人で世帯
が通つて行ける位月給が貰へるや
うになつたら、娘を上げませうと
承諾してくれた。その時の嬉しか
つたこと、僕は一生忘れない。」

「その時、栗さん幾つだったの？」
「十五だつたかな」
「どう？」
「僅か十五だつたと思ふよ」
「十五？」
「うむ」
「まあ先生」
「何だい？」
「先生つたら——呆れた感だ」
「そんなことあるものか。十五になれば、胸は二重より厚はしいよ。」

「子供を、そんな手懸したばかりだわよ。そんな手懸の由に、女を嫁にた先生の百病が癒えたら、先生はさういふお願ひさんに求むる男がゐたら、先生だんなの感じがしてさうなほど。」

「お母様やないわ。現ながら、どうかと思ふでせうや。」

「その時は、さう云ふ事がなかつた。」

「かわねえ。」

化學、有機化學でも、またないし、
無機化學でも、その體裁として、
物理學や生物學の體裁として、
物理學や生物學の體裁として、
來用ひられてゐる。化學の如き、
もやはその邊境されることであ
る。

「物化學」に對する先づは、恐
ろ耳馴れてゐないと言ふこと
は、かつ體裁として、それと必
ずし上乗のものではない、と見
て置か、ともかくも、如何に
實行するために最も便宜のものは
なされてゐるに、見出し、之らに
考へられるのを、之らに、
に現はれる場合に、物化學と

混同の不便と改稱論

石
原
緯

哲學に於て自然の理を以て「物」をもつて目するに足ると考へるは、「物質」といふ語である。第一にこれは點點して十分にあらわぬものがある、或る程度で内容的に「事物」であると思はる。唯私がここに對しても「物」と多く疑問とするのは、同じく物質の總括を爲する物理學が、「物質學」以外を平行使すべきこと、又物質の一側面を「動物」のみと爲すものがなくとも現在合ふものでは同様に「物質學」の範圍に屬しないやうになることで

に照れるといふことは、恐らく安
定であるといふことである。こ
れは、ある意味で、現代化学の
知きものを「電解物性学」とする
物性といふ、習慣的にはかしら
ぬ物質といふようなものを、考
え見れば、恐らく誤れないとい
はれない。熱化学、光化学など
も同様である。

要するに、「物質学」を化学に
代用することの欠陥は、それが
普通の意味では化学よりも遙か
に廣い範囲をばはすことにある
と考へられる。これを正しく
制限するためには、やはり物質
変化を意味する語が何かしら
に付加されるべきではないか。

は化学の語をその適用する者と
に、これを物質學と併合してす
る。これを「物質化學」では再び
「物質科學」と同義語をなすのに
反して「物質學」なる名略はこれ
から纏れることがである。しかも
この名略は、他方で「物理學」が
「物理科學」の略であるのと相違
立って、孰れも学名略であると思
はれてであり、更にこの場合には
「物理學」の上で、「科學」との混同
の恐れのない限り「化學」を「物
化學」の略として使用し得る利
がある。略語には「物理化學」

油絵と素描。それに小用、水彩を加へた小道具で、それによつて「道」をたしなむ。喜望峯の山を好んで描くのは情懷が、喜望峯に心を結ぶ所である。強く生きる意志を示すものがある。あゝいふ、いふ、最期を達した性格的、肉体的苦悶が数多のうちに現れた作品を通して、作田はやはり時代の生んだ特殊の作家だ。

油絵の中では、舞臺性をいたしたものや、果物の小彫物、花鳥の風景など、マダモエルの効果をもあせてある。水彩は描きやすいものの小品に過ぎないが、これも彼らしい趣向があはれられる。

素描は下書きであらうか、大抵の「道」の下が通る上、動物を大示するところ。その他に日本風の人物二匹ばかりあつて、そこたまに脚

で現代小説の前途に對する希望を表明した。假に云へば、現代小説は生産過剰のために腐がつて滅びるであらうといふので

赤 外 線

ケル博
士がさ
る文藝
協會の
晩餐會
の席上

位位のぼるが、今ちよつと簡
 單にはわかることが出来ないし、
 それがわかるつたとしても、制作
 家の數と讀者の數との割合を正
 確に調査してみないことは、
 わが國の小説が生成發達に陥つ
 てゐるかどうか、マツケル先生
 にも斷言出来にくいであらう。
 況んや、わが國の現代小説が衰
 亡の道を辿つてゐるやないかと
 斷言できないであらう。

の點も違ひ、方針には異なく
なるに違ひないと思つてゐる。

x

最初に述べた如く「科學」と「化學」との區別に困るのは、専門的な説明の場合よりも寧ろ一般的な場合に多いので、せめて中等教科書などにおいて一方の政綱が實行されるに至るならば、それが最も

學藝だより

八國國耳會 廿六日午後六時、辨
一ツツ領知水會經
大理事部會調議 廿六日午後三
國學部會第二號議院議、石原純
「自らの個性と學問」
會心學部會開會 二十六日午後六
時、帝大講内第二、第二學部會
の會、文藝部開會 廿七日午後六
時、千足屋上
開議紅氣の會 廿八日午後二時
第三丁目明治製菓第四階
大衆議院 二十八日より三十
日（發七時より）小石川傳通